

A08・A09 データ活用で進める業務連携		【受講対象】
【概要】	所有するデータを経営資源として管理し、活用することで、社内外の業務の連携を強化できることを理解する。	種々たくさんあるデータから活用すべきデータを抽出したい方  知識を深めたい方、活用方法を知りたい方
<p>会場：【A08】独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 愛知支部 名古屋事務所 (名古屋市中区錦1-10-1 MIテラス名古屋伏見5階)</p> <p>【A09】独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 愛知支部 中部職業能力開発促進センター (ポリテクセンター中部) (小牧市下末1636-2)</p> <p>講師：A08 片桐 剛、A09 伊藤 彰規 (株式会社東京ナレッジプラン)</p>		
カリキュラム		
■ データ活用の基本  《1.5 h》	<p><u>データと情報の違い</u></p> <p>データと情報の基本的な内容を説明すると共に、生産現場では多種にわたるデータや情報が散在することを理解する。</p>	
	<p><u>欲しい情報を得るためのデータ選別</u></p> <p>生産現場には大量のデータがあり、実際に必要なデータとして、どういう基準で選別するかについて具体的にデータを示しながら解説する。</p>	
	<p><u>データ活用のために必要なルール</u></p> <p>データを活用するために必要なルール (いつ、何を、どうやって など) について解説する。</p>	
	<p><u>データの種類と型、入力のルール</u></p> <p>会社の中には数多くのデータがあり、そのデータの種類について、分類すると同時に、データのタイプやその入力ルールについて解説する。</p>	
	<p><u>&lt;演習 1&gt;データ活用の基本</u></p> <p>生産に必要なデータの棚卸しを行い、どのようなデータがあるのかを確認し、必要なデータがすべて整っているのかを学習する。</p>	
■ データマネジメント  《1.5 h》	<p><u>データの品質管理</u></p> <p>生産現場で活用するデータは一定以上の品質が確保されたもので、その品質管理としては信頼度や鮮度が必要であることを解説する。</p>	
	<p><u>データ管理のための統制</u></p> <p>収集したデータは企業にとって重要なデータであるため、データ管理方法の統制が必要になる。そのあり方について解説する。</p>	
	<p><u>データの収集と蓄積</u></p> <p>各工程で収集したデータと、その蓄積方法についてどのように管理するのかを解説する。</p>	
	<p><u>データの共有と連携</u></p> <p>自工程に必要なデータが他工程でも必要とされることを解説し、そのデータに何か新しいデータを追加することで多くの工程で連携することを解説する。</p>	
	<p><u>&lt;演習 2&gt;データマネジメント</u></p> <p>生産工程で必要とするデータを細解き、どこの部署で必要とするデータかをまとめ、どこで保存し、管理することが最適かをグループワークで検討する。</p>	
■ データ活用と業務の連携  《2 h》	<p><u>社内データの統合と管理</u></p> <p>システム間のデータ連携を行うには、社内で扱うデータはきちんと管理されていないことを解説する。</p>	
	<p><u>IT新技術を活用したデータ活用</u></p> <p>最新のIT技術 (ITツール、AI、RPAなど) 利用したデータ活用方法について事例を用いて解説する。</p>	
	<p><u>データ活用による業務連携事例</u></p> <p>データは一つの部署だけではなく他の部署でも必要な場合もあり、またシステム間での連携も重要になる。こうした内容について業務を通じて連携していくことを学習する。</p>	
	<p><u>&lt;演習 3&gt;データ連携と業務の連携</u></p> <p>チーム間でデータを連携しながら業務を進める演習を実施する。その中でデータがどのような状態になっていることが活用し易いのかを体験する。</p>	
■ 演習  《1 h》	<p>セミナーで学んだ内容をベースに自社にあるデータの連携について (部署間、システム間) 概要書をまとめる。</p>	